

平和の集い(敬老会交流会)

令和元年. 8. 9(金)



74年前の8月9日、長崎に原子爆弾が投下されました。今日は、西山台・三川より5名のおじいちゃんおばあちゃんに来ていただき、戦争や平和について考える時間をいただきました。先生に原爆の話を聞いた後、DVD「ながさきの子うま」をみました。戦争によって、人間だけでなく動物などたくさんの尊い大切な

命がなくなり、子うまのお母さんも友達もなくなりました。視聴後、子ども達からは「悲しかった…」「かわいそう」という言葉が聞かれました。

その後、子ども達からおじいちゃん、おばあちゃんに次のような質問がでました

【子どもたちからの質問】

1. 小さい頃に、プールはありましたか？
2. 戦争中、どんな食べ物がありましたか。
3. どんなお家に住んでいましたか。
4. 戦争の時は、どんなおやつがありましたか。



おじいちゃん、おばあちゃんより、「プールはなかったので、海や川で遊んでいたこと」「戦争があると、爆弾で全てなくなってしまうので、お店も食べ物も靴も洋服も…全部なくなってしまったこと」「食べ物がないので、草を食べていたこと」「原子爆弾が落ちた時の“きのこ雲”

と、その後一面真っ赤に燃え上がる町の様子を遠くから見て、とても恐ろしかったこと」「戦争で何でもなくなってしまった。“食べ物”や“人の命”“幸せ”もすべて失ってしまったこと」など、さまざまな体験の話をききました。子どもたちにとっては、なかなか想像しにくい内容もあったかもしれませんが、

「もう二度と戦争はしてはいけないということ」を子どもたちが感じ、「命の大切さ」や「自分たちにできることは何か」等を考える大切な時間になったと思います。おじいちゃん、おばあちゃんたちが私たちに一生懸命伝えて下さっているのがよくわかりました。「長崎」に住む子どもたち・私たちも真剣に「平和」について向き合っていくことの大切さを感じました。

